

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第3部門第2区分
【発行日】平成16年10月28日(2004.10.28)

【公表番号】特表2000-508301(P2000-508301A)

【公表日】平成12年7月4日(2000.7.4)

【出願番号】特願平9-535795

【国際特許分類第7版】

A 6 1 K 31/352

A 6 1 P 31/04

A 6 1 K 47/44

【F I】

A 6 1 K 31/35 6 0 2

A 6 1 K 31/00 6 3 1 D

A 6 1 K 47/44

【手続補正書】

【提出日】平成15年10月3日(2003.10.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成15年10月3日

特許庁長官 今井 康夫 殿

1. 事件の表示

平成9年特許願第535795号

2. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

名 称 バイエル・アクチエンゲゼルシャフト

3. 代 理 人

〒107-0052

住 所 東京都港区赤坂1丁目9番15号

日 本 自 転 車 会 館

氏 名 (6078)弁理士 小田島 平 吉

電 話 3585-2256



4. 補正命令の日付 なし

5. 補正の対象

明細書の「特許請求の範囲」の欄及び「発明の詳細な説明」の欄



方 式 査



6. 補正の内容

1) 特許請求の範囲を別紙の如く訂正する。

2) 明細書19頁、19行「6週間に渡って安定である。」の次に次文を挿入する。

「本発明の好ましい実施の態様は次のとおりである。

1. ヒマシ油を基とする注射用アベルメクチン含有調剤およびミルベマイシン含有調剤。

2. 下記の組成：

1. 活性化合物を0.1から10重量%、

2. ヒマシ油を15から50重量%、

3. 一価もしくは多価アルコール類の植物性または合成脂肪酸エステル、脂肪族もしくは芳香族アルコール類、環状カーボネート類から成る群に属する1種以上の共溶媒を30から85重量%の濃度、

4. 適宜、さらなる助剤、

を有することを特徴とする上記第1項記載の調剤。

3. 下記の組成：ヒマシ油を15から50% v/vと鎖長が中程度のトリグリセリドおよび/またはプロピレングリコールオクタノエート/デカノエートおよび/またはオレイン酸エチルを30から85% v/vと溶媒であるベンジルアルコール、プロピレングリコールまたはプロピレンカーボネートの1つまたはそれらの混合物を0から30% v/vと任意に安定剤を1000 ppm以下の量で含む溶媒混合物にアベルメクチンまたはミルベマイシンが0.1から10% m/v入っている組成を有する上記第1項記載の調剤。

4. 下記の組成：ヒマシ油が20から45% v/vで鎖長が中程度

のトリグリセリド類またはプロピレングリコールオクタノエート／デカノエートまたはオレイン酸エチルが45から80% v/vでベンジルアルコールが0から20% v/vでプロピレングリコールまたはプロピレンカーボネートが0から10% v/vで任意に安定剤が500 ppm以下の組成を有する上記第1項記載の調剤。

5. 上記第1項記載の調剤を調合する方法であって、該活性化合物をヒマシ油と一緒に混合した後に該共溶媒を加えるか或は該活性化合物をヒマシ油と該共溶媒の混合物に溶解させることを特徴とする方法。

6. 上記第1項記載の調剤を調合するためのヒマシ油の使用。」

(別紙)

請求の範囲

1. ヒマシ油を基とする注射用アベルメクチン含有調剤およびミルベマイシン含有調剤。
2. 請求の範囲第1項記載の調剤を調合する方法であって、該活性化合物をヒマシ油と一緒に混合した後に該共溶媒を加えるか或は該活性化合物をヒマシ油と該共溶媒の混合物に溶解させることを特徴とする方法。
3. 請求の範囲第1項記載の調剤を調合するためのヒマシ油の使用。